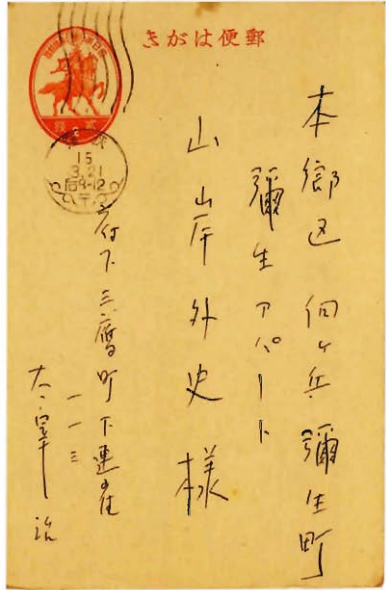


昭和15年(1940年) 3月21日 [消印]

柳 はん。

へいはい、僕ニも、かへつて失礼いたしましてし
た。お年紙のおしむきは、承知いたしましてし
た。いづれ、今月末か、来月はじめに、
もういちど、三層へは、送替願ひたいと
思つて居ります。だが、起人の名前前も、尚
よく吟味したいと思つて居ります。中谷
保田西氏の面^{トシ}子も、充分考へて居ら
ます。川端さんへは、前もつて貴見
から、お年紙出して回遊して下さい。敬六。
今月末に、またお心より返します。



拝啓。

先日は、僕こそ、かへつて失礼いたしました。お手紙のおもむきは、承知いたしました。いづれ、今月末か、来月はじめに、もういちど三鷹へ御足労願ひたいと思つて居ります。発起人の名前も、尚よく吟味したいと思つて居ります。中谷保田両氏の面子も充分、考へて居ります。川端さんへは、前もつて貴兄から、お手紙出して置いて下さい。

敬具。

本郷区向ヶ丘弥生町 弥生アパート 山岸外史様
府下三鷹町下連雀一三三 太宰治

【校異】

拝啓〔全集〕 → 拝啓。

(改行) 御手紙の〔全集〕 → (改行なし) お手紙の

もういちど、〔全集〕 → もういちど

(改行) 発起人の〔全集〕 → (改行なし)

中谷、保田〔全集〕 → 中谷保田

(改行なし) 敬具。〔全集〕 → (改行)

【フット】

発起人——山岸外史『芥川龍之介』(ぐろりあ・そさえて、昭和十五年三月)の出版記念会の発起人。山岸外史『人間太宰治』には、太宰が出版記念会を強く勧め「誠心誠意、僕の世話をやいてくれた」

とある。

中谷——中谷孝雄。

保田——保田与重郎。

川端さん——川端康成。

昭和15年(1940年) 3月28日 [消印]

拝見。

先日は、信実のお手紙をいただき

ました。

荻川藩に、いよいよ

出たさうで、おめでたうございます。

会のことには、着々話も進んで

戻ります。中谷、保田両氏とも

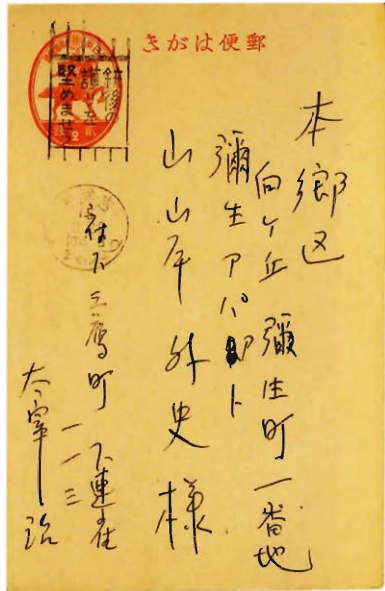
堅くお察に連絡をとって戻り

ます。四月二日に、ごめん

どうで、亀井君のお宅へお

らつしやつて下さいます。いろいろ相談する

こともあります。いろいろおらつしいます。



拝啓。

先日は、信実のお手紙をいただきました。芥川論も、いよいよ出たさうで、おめでたう存じます。会のごとは、着々話も進んで居ります。中谷、保田両氏とも、緊密に連絡をとつて居ります。四月二日に、ごめんどうでも、亀井君のお宅へ、おらつしやつて下さい。いろいろ相談することもあります。ひるごろ、おらつしい。

本郷区向ヶ丘彌生町一番地 彌生アパアト 山岸外史様
府下三鷹町下連雀一三三 太宰治

【校異】

拝啓〔全集〕 → 拝啓。

会のごとは〔全集〕 → 会のごとは、

(改行) 中谷、〔全集〕 → (改行なし)

両氏とも〔全集〕 → 両氏とも、

ごめんだうでも、〔全集〕 → ごめんどうでも、

いらつしやつて〔全集〕 → おらつしやつて

いらつしやい。〔全集〕 → おらつしい。

【ノート】

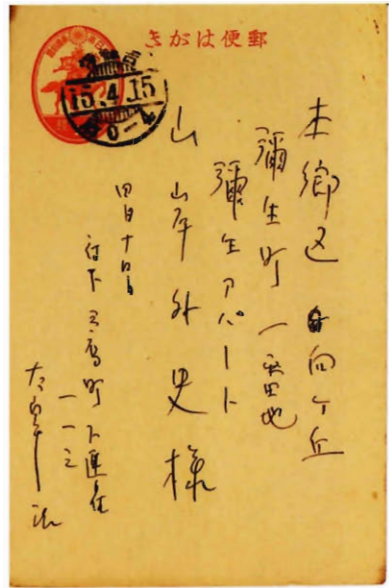
芥川論——山岸外史「芥川龍之介」(ぐるりあそびさえて、昭和十五年三月)。

会のごと——山岸の出版記念会。

昭和15年(1940年) 4月15日 [月日直筆、消印]

阿部さん、

昨夜は、お癒たままいました。まづ
成功と云じて居ります。 幹事の
ひとりとして、いろいろ行きとどかず、
恥ぢて居ります。 山崎さんには、
お礼から、改めてお礼を言ひます。
それから、昨夜おいでトされた人の
うち一人、重たつてお返し。友人に兄から
おがきで、お礼の挨拶。お返しに
ふつた。お礼の挨拶。お返しに
お返しに、お返しに。



拝啓。

昨夜は、お疲れさまでした。まづ成功と存じて居ります。幹事のひとりとして、いろいろ行きとどかず、恥ぢて居ります。小林倉さんには、私から、改めてお礼を言ひます。それから、昨夜おいで下された人のうち重だつた四、五人に兄からハガキでお礼の挨拶お出しになつたらいかがでせう。いづれ、また。

草々。

本郷区向ヶ丘彌生町一番地 彌生アパート 山岸外史様

四月十五日 府下三鷹町下連雀一三 太宰治

【校異】

拝啓〔全集〕 → 拝啓。

〔脱文。〕「私から、」の後〔全集〕 → 改めてお礼を言ひます。それから、

〔改行〕草々。〔全集〕 → 〔改行なし〕

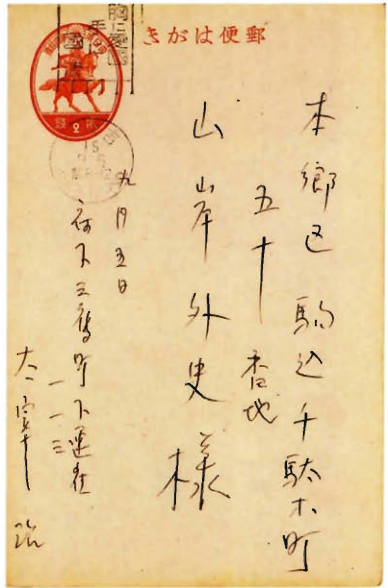
【ノート】

昨夜——四月十四日、日比谷の松本楼で開かれた山岸外史『芥川龍之介』の出版記念会。太宰が幹事を務めた。

小林倉さん——小林倉三郎。原稿用紙の製作販売業「久楽堂」主人。佐藤春夫夫人千代の兄。

昭和15年(1940年) 9月5日 [月日直筆、消印は6日]

押付。 (お仕事が一役路の時には、お知れせ
 ざら。月未ごろには、私にも、ひまにふりつたり
 とお仕事で、いまごろは、おそがしい
 仕事と 思つて居りました。私にも、少い
 づつ 仕事をしたり、本を讀んだり
 してゐます。けさ、あほかきをい
 たすまいと、(切抜きを受け取つた)
 とか 書かれています。思ひ当たる
 事もありませんでしたが、何か宛巻を
 向う送つたのでは、ふいでせうか。氣にならずの
 で。



拝啓。

ごぶさたして居ります。貴兄は、きつとお仕事で、いまごろは、おいそがしい事と思つて居りました。私も、少しづつ仕事をしたり、本を読んだりしてゐます。けさ、おハガキをいただきましたが、(切抜きを受け取つた)とか書かれてありました。思ひ当る事ありませんでしたが、何か宛名を間違へたのではないでせうか。気になりますので。

(お仕事が一段落の時には、お知らせ下さい。月末ごろには、私も、ひまになるつもりです)

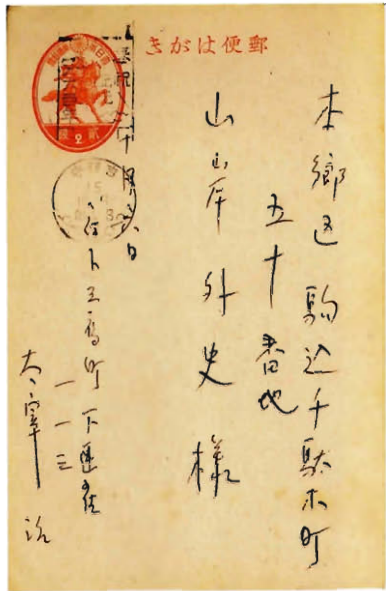
本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様

九月五日 府下三鷹町下連雀一三三 太宰治

【校異】

拝啓〔全集〕 → 拝啓。

(脱文。「気になりますので。」(改行)の後)〔全集〕 → (お仕事)が一段落の時には、お知らせ下さい。月末ごろには、私も、ひまになるつもりです)



【校異】

〔脱文。〕「庭に降りて、」の後〔全集〕→貴兄の画してくれた図を参考にして、薔薇の

ついに〔全集〕→つひに

貴兄の御来駕を〔全集〕→貴兄御来駕を

ハイキングなど〔全集〕→ハイキングなど、

お流れになったやうです。〔全集〕→お流れになったやうです

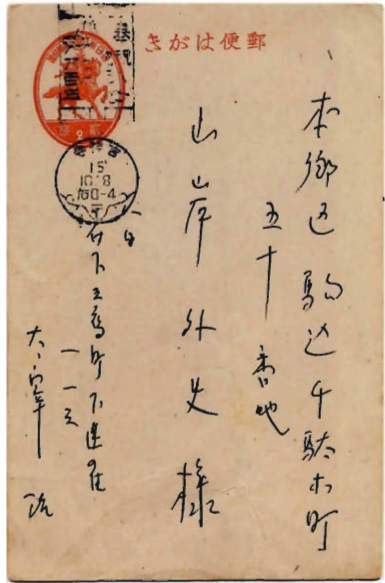
【フート】

亀井君——亀井勝一郎。

先夜は、私こそ失礼いたしました。けふは、ごていねいな御指図をいただき、早速、庭に降りて、貴兄の画してくれた図を参考にして、薔薇のまはりを、うろうる致しましたが、いま、みんな、どの枝にも可愛い芽が出て、花も、美事なのが（初夏のころよりも、ずっと大きい花が）咲いて、つほみもたくさん附いてゐるので、人情、切るに忍びず、つひにハサミを投じてしまひました。どうも臆病でいけません。いまは、貴兄御来駕を待つばかりであります。おひまの折、早朝からでも、一つ、気保養がてらに、武蔵野へ、おいでになつて下さいませんか。どうも、私では、切れません。明日（七日）は、私、家にゐないかも知れませんが、八日は、いかがでせうか。お天気のいい日でしたら、亀井君とハイキングなど、如何。れいの文学界の話、お流れになったやうです

本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様

十月六日 府下三鷹町下連雀一一三 太宰治



拝啓。

きのふ早朝、林修平が来て、私も市内に用事があり、出掛けるところでしたので、一緒に市内へ行き、私の用事をすまして、それから、一緒に横浜へ船を見に、ぶらりと行き、港でボンヤリして帰りました。林とわかれて、私は、新宿でひとりでちよつと飲んでゐるうちに、貴兄のところへ、電話しなくなつて、電話いたしましたがお留守でした。兄も、御多忙の御様子ですから、もしお疲れのやうでしたら、ゆつくり御休養の上、おひまの折にぶらりとおいで下さいませ。私、ちよつと作品を見てもらひたくも思つてるのですけど。

本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様

八日 府下三鷹町下連雀一―三 太宰治

【校異】

拝啓〔全集〕 → 拝啓。

休養〔全集〕 → 御休養

〔ノート〕

林修平——林富士馬。

昭和15年(1940年)10月12日・速達(消印)

抑々。

一昨夜は、失礼いたしました。 後

行には、せむ行きませう。 中へおそく

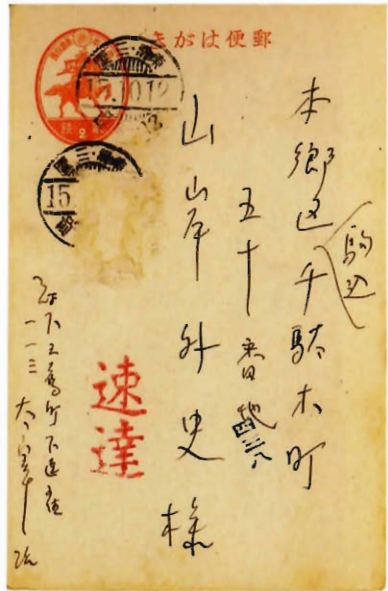
井伏氏より速達あり。 十四日

(月曜) 午ノ刻八時 新大塚駅

待合室に集まる。 時の

正確にあり。 あつちへおそく

乙。



拝啓。

一昨夜は、失礼いたしました。旅行には、ぜひ行きませう。
 ゆうべおそく井伏氏より速達あり、十四日（月曜）午前八時
 新宿駅待合室集合との事、時間正確においでお待ちいたし
 ます。

不乙。

本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様
 府下三鷹町下連雀一一三 太宰治

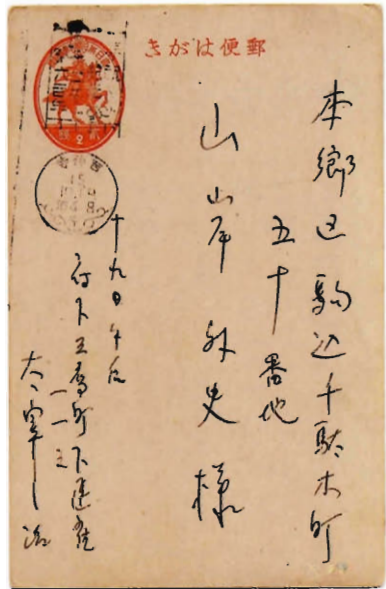
【校異】

拝啓〔全集〕 → 拝啓。

（改行なし）不乙。〔全集〕 → （改行）

【ノート】

新宿駅待合室集合——佐藤春夫、井伏鱒二、山岸外史、亀井勝一
 郎との甲府への旅行。



拝啓。

けさ、お手紙さしあげてから、亀井君のところへ、ちよつと立ち寄つたら、貴兄が昨日おいでになつたといふ事を聞き、すまなく思ひました。板橋の山田義兄のところへ行つてゐたのです。井伏さん招待の件は、大賛成です。井伏さんも、「山岸君で、いい人だねえ。旅行してみたら、よくわかつた」としみじみ言つて居りました。ひきつづき胃が悪い由にて、近く保養に出かけるといふハガキをもらひました。保養から、お帰りになつた頃、どこか静かなところへ御招待致しませう。なほ、文学運動に就いては、私にも、多少の愚見があります。いづれ。

【校異】

拝啓〔全集〕 → 拝啓。

御手紙〔全集〕 → お手紙

山岸君つて、〔全集〕 → 山岸君で、

(改行) なほ、〔全集〕 → (改行なし)

私にても、〔全集〕 → 私にも、

【フート】

旅行——十月十四日の甲府への旅行。

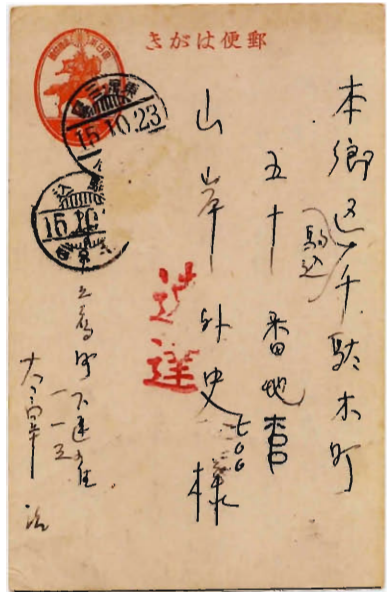
本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様

十九日午后 府下三鷹町下連雀一三 太宰治

昭和15年(1940年) 10月23日・速達〔消印〕

抑々。

ロマン派の問題は、いろいろ
 しいと思ひます。四方八才から考
 へてみたいと思ひます。私は自重論
 的な方が、足らぬは説を伺ひたい
 と思つておます。いづれ機会を作り、
 足と二人きりで、ゆつくり話合つてみたい
 と思つておます。さて、佐々木先生は、
 あの後、また甲府へ行き、不トウ園の二思を
 数枚画いて、まらねと由にて、その製を、披函路の
 内意もあり、二十四日、午後二時に、あつて
 と、招待でありました。午後二時に、小丸川佐藤邸においで
 下さい。そのころ、佐藤邸へ行つてはりますから。



【校異】

拝啓〔全集〕 → 拝啓。

考へて見たいと〔全集〕 → 考へてみたいと

〔脱字。「小石川」の後〕〔全集〕 → 佐藤邸

小石川に〔全集〕 → 小石川佐藤邸に、

そのころ〔全集〕 → そのころ、

拝啓。

ロマン派の問題は、いろいろむづかしいと思ひます。四方
 八方から考へてみたいと思ひます。私は自重論なのですが、
 兄からも御説を伺ひたいと思つてゐます。いづれ機会を作
 り、兄と二人きりで、ゆつくり話合つてみたいと思つてゐま
 す。さて、佐藤先生は、あの後また、甲府へ行き、ブドウ園
 の画を数枚画いて来られた由にて、その製作披露の内意も
 あり、二十四日、午後二時に、おいでといふ招待であります。
 午後二時に、小石川佐藤邸に、おいで下さい。そのころ、私
 も佐藤邸へ行つて居りますから。

本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様
 府下三鷹町下連雀一一三 太宰治

昭和15年(1940年) 11月1日(日にち直筆、消印)

抑々。

きのうは、朝から夜まで、いろいろ復讐

に悲しみ、寂寥、親しさ、その他一は、あ

れ動いて、言葉にするのも、しらじらしく

思いつて、しまつて、返さぬ、と心にまします。

佛さまが、やすらかに眠るやうに祈つて

こぼり出す。 昭和十五年十月三十

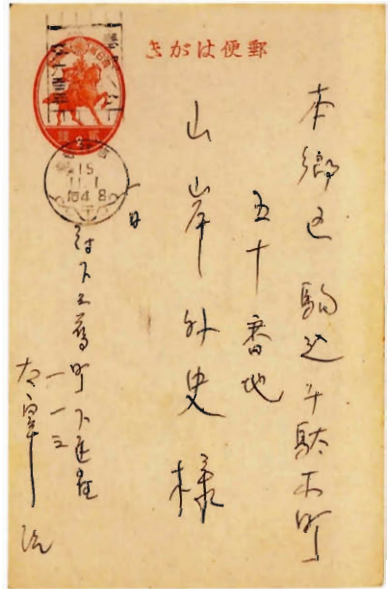
一日を、忘れたる事は、無いでせう。

あれから、シヤレウシエルに、山田君を捜しに

行き、身ぐるみはかれて、歸りやうな。十日

也は、やはり、近日、いい機会に、便はせたいと、たまします。

不乙。



拝啓。

きのふは、朝から夜まで、いろいろ複雑に悲しみ、蔽鬱、親しさその他一ぱいの感動にて、言葉にするのも、しらじらしく、黙つて、しまつて置きたいと思ひます。

仏さまが、やすらかに眠るやうに祈つて居ります。私は、昭和十五年十月三十一日を、忘れる事は無いでせう。

あれから、シヤンクレエルに、山田君を捜しに行き、身ぐるみはがれて帰りました。十円也は、やはり、近日いい機会に、使はせていただきます。

不乙。

本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様
 一日 府下三鷹町下連雀一一三 太宰治

【校異】

拝啓〔全集〕 → 拝啓。

親しさ、〔全集〕 → 親しさ

しまつて置きたい、〔全集〕 → しまつて置きたい

眠るやう〔全集〕 → 眠るやうに

〔改行〕十円也は、〔全集〕 → 〔改行なし〕

いい機会に〔全集〕 → いい機会に、

〔改行なし〕不乙。〔全集〕 → 〔改行〕

【ノート】

仏さま——山岸外史夫人ユキ。